

区分・種別	県指定史跡		
名称	せんかこじ 泉貨居士の墓		
所在地	西予市野村町野村		
所有者	土居達也	管理団体	
指定年月日	昭和24年9月17日		
解説	<p>「泉貨」(仙貨)とは、宇和郡山間部の特産品であった泉貨紙(仙貨紙、仙花紙)の製法を創案したという兵頭太郎右(左)衛門道正の号である。その墓は安楽寺の墓地南端にあり、墓碑の高さ95cmあまりである。</p> <p>兵頭太郎右(左)衛門は戦国時代末期、宇和松葉城主であった西園寺公広に仕え、天正12(1584)年、25貫文の領地と兵頭姓を与えられたという。同15年主家滅亡後、彼は安楽寺近くに草庵を結び、隠せいで「泉貨」と号し、慶長2(1597)年に没した。</p> <p>この間、彼は楮<small>こうぞ</small>の皮を原料とし、「トロロ」というアオイ科の草根汁を混ぜて粘着力を強め、粗、精の漉き紙2枚を重ね合わせる独特の製紙法をみ出した。この紙は、紙質が強じてシミの害が付きにくいため、帳簿用紙、経本、折本などに重用されることになる。泉貨紙の生産はやがて宇和島藩の保護を受けて発展したが、文化年間(1804～1818年)になると藩専売制をしき利益を独占している。明治、大正時代には地場産業として盛えたが、洋紙の普及でその後衰微の道をたどっている。</p>		



区分・種別	県指定史跡		
名称	せんかこじ 泉貨居士の墓		
所在地	西予市野村町野村		
所有者	土居達也	管理団体	
指定年月日	昭和24年9月17日		
解説	<p>「泉貨」(仙貨)とは、宇和郡山間部の特産品であった泉貨紙(仙貨紙、仙花紙)の製法を創案したという兵頭太郎右(左)衛門道正の号である。その墓は安楽寺の墓地南端にあり、墓碑の高さ95cmあまりである。</p> <p>兵頭太郎右(左)衛門は戦国時代末期、宇和松葉城主であった西園寺公広に仕え、天正12(1584)年、25貫文の領地と兵頭姓を与えられたという。同15年主家滅亡後、彼は安楽寺近くに草庵を結び、隠せいで「泉貨」と号し、慶長2(1597)年に没した。</p> <p>この間、彼は楮<small>こうぞ</small>の皮を原料とし、「トロロ」というアオイ科の草根汁を混ぜて粘着力を強め、粗、精の漉き紙2枚を重ね合わせる独特の製紙法をみ出した。この紙は、紙質が強じてシミの害が付きにくいため、帳簿用紙、経本、折本などに重用されることになる。泉貨紙の生産はやがて宇和島藩の保護を受けて発展したが、文化年間(1804～1818年)になると藩専売制をしき利益を独占している。明治、大正時代には地場産業として盛えたが、洋紙の普及でその後衰微の道をたどっている。</p>		

